

「米の精7号」の環境こだわり米栽培こよみ

2013. 12

<高品質・良食味米生産の栽培ポイント>

①栽植密度は、湖辺；60株/坪、湖辺砂質・平坦；60~70株/坪、中山間；70株/坪を基準にする。
 ②初期生育をよく揃えることが肝要、薄播き苗を1株3本程度の細植えにする。
 ③「米の精」栽培では、土壤中の微生物の働きにより水稻の栄養を供給するので追肥・穗肥は不要。

<米の精7号施肥基準> kg/10a

肥料名	元肥	穗肥	計
コシヒカリ	120	—	120
キヌヒカリ	150	—	150
みずかがみ	150	—	150

*一般田では、「米の精7号」を元肥として乾田状態で施用し全面耕起後、入水する。
 *大豆・やさい跡では、地力の状況に応じて元肥量を半分~8割程度に減らす。

<茎数の推移>

植付は1株3~4本

<特性概要>

区分	みずかがみ	コシヒカリ	キヌヒカリ
出穂期	7月25日	7月28日	7月29日
成熟期	8月27日	8月31日	9月1日
稈長(cm)	84	95	83
穂数(本/m²)	19.0	18.8	18.1
穗数(本/m)	368	415	369

* 上表は県農業技術振興センター調査

栽培管理のポイント

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生育期	育苗期	移植期	活着期 分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期 出穂期	登熟期 成熟期
水管理	浅水代かき・自然減水	やや深水	浅水管理	中干し 間断かんがい	★湛水管理(出穂前後各3週間)	間断かんがい(適期収穫)
栽培管理のポイント	・ 健苗の育成 ・ 温湯消毒は60℃10分間実施 ・ 十分に浸種して芽出しを確実に ・ は種は、均一にうす播きを励行する	・ 施肥 ・ 田植え前に適度な水を流さない	・ 移植 ・ 田植えは5月上旬に ・ 田植えは乾田状態で均一に散布し、直ちに全面耕耘をおこなう。	・ 浅水で湛水状態を続ける ・ 中干し・溝切り	※「米の精栽培」では追肥・穗肥不要 ※中干し中に田面が白乾しそうな時は管理溝に浅水を流す。 ※除草剤散布後7日間は確実に止水する ※1株茎数15本を目標に中干しを行う ※中干し前には数m間隔で管理溝をつくる ※中干し中に田面が白乾しそうな時は管理溝に浅水を流す。 ※除草剤散布後7日間は確実に止水する ※1株茎数15本を目標に中干しを行う ※中干し前には数m間隔で管理溝をつくる	・ 収穫・乾燥・調製 ・ 土づくり ・ 深耕 ・ 稲わら・堆肥など有機物を年内に鋤き込む ・ どれ太郎など土づくり肥料施用 ・ 土づくり ・ 深耕 ・ 稲わら・堆肥など有機物を年内に鋤き込む ・ どれ太郎など土づくり肥料施用

苗箱施薬・除草剤使用基準

項目	薬剤名
苗箱施薬	デジタルコラトップアクタラ
除草剤	バッカリ粒・プロアブル・ジヤンボ

*農薬は容器に記載の説明をよく読んで適正に使用する

土づくり資材施用基準

土づくり資材名	施用量	施用時期
どれ太郎またはニューこう太郎	100kg/10a	年内中

発行:いきものみつけ滋賀推進協議会・JAこうか・JAグリーン近江

監修:甲賀地域農業農村振興事務所・東近江地域農業農村振興事務所